

こんな本があります オリンピックの本

分類	資料名	編著作者	出版者	出版年
S67	第18回オリンピック競技大会東京都報告書		東京都	1965
S67	1964年東京オリンピック全記録		宝島社	2014
S67	東京オリンピック施設の全貌	日本オリンピック委員会編纂	日本電設工業会	1964
S67	1964年オリンピック東京大会	ベースボール・マガジン社	ベースボール・マガジン社	1965
S67	64年東京オリンピック	朝日新聞社	朝日新聞社	1964
S67	東京オリンピック	講談社	講談社	2014
S67	アサヒグラフ 64年10月16日 米冠へ精鋭つどう代々木選手村の生活		朝日新聞社	1964
S67	オリンピック・シティ東京 1940・1964 (河出ブックス)	片木 篤	河出書房新社	2010
S67	オリンピック選手村物語1964	三枝 勝	幻冬舎メディアコンサルティング	2018
S67	国立競技場代々木競技場10年のあゆみ	国立競技場	国立競技場	1974
S67	国立代々木競技場 YOYOGI NATIONAL STADIUM	国立代々木競技場	国立代々木競技場	
S67	東京人 No.206 (2004.9) 東京オリンピック 1964		都市出版	2004
S67	東京人 No.331 (2013.11) 丹下健三と東京オリンピック 1964-2020		都市出版	2013
S71	代々木公園 (東京公園文庫)	相川 貞晴	郷学舎	1981
S73	東京人 No.83 (1994.8) 「昭和30年代、東京」オリンピックが街を変えた		東京都文化振興会	1994
S10	歴史のなかの渋谷 渋谷から江戸・東京へ (渋谷叢書) p.303 戦後復興と東京オリンピック	上山 和雄	雄山閣	2011
S12	新修渋谷区史 下巻 p.3148 オリンピックと渋谷	渋谷区	渋谷区	1966
S12	渋谷は、いま p.76~	渋谷区企画室広報係	渋谷区	1982

オリンピック関係の本は一般書架にもたくさんあります

しづや あの日 あんなことそして こんな本

— 渋谷区地域資料通信 5 —

2019年12月1日

編集/発行 渋谷区立中央図書館 (株)図書館流通センター

渋谷区神宮前1-4-1 3403-2591

図書館ホームページ>しづやのページ

https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

しづや あの日 あんなことそして こんな本

渋谷区地域資料通信 5

2020年はオリンピックの年。同じ都市で複数回開催されるのは夏季では東京が5都市目になります。前回の東京大会は56年前の昭和39年(1964)で、アジアで最初のオリンピック開催地となりました。メインスタジアムこそすぐ隣の新宿区霞ヶ丘町の国立陸上競技場でしたが、渋谷区内には数多くの競技施設が設けられオリンピックの中心地のひとつでした。今も残る水泳競技の会場にな

設計の国
場の第一
ケットボ

オリンピックの街・しづや

った丹下健三
立代々木競技
体育館、バス
ールの第二体
育館。往時の姿はとどめていませんが、日本に大会最初の金メダルをもたらした重量挙げの三宅選手が活躍した渋谷公会堂や遠藤選手をはじめとする体操陣が演技した東京体育館、水球の同屋内水泳場。マラソンでは甲州街道をアベベ、円谷が疾走しました。そしてなによりも、米軍の居住施設だったワシントンハイツの跡地には代々木選手村が設けられ、世界中の選手が集まりました。今は都立代々木公園になっている選手村跡地内には往時の配置を刻む記念碑とオランダ選手が使用した選手村住居が記念宿舎として残されています。

オリンピックの開催は渋谷区のインフラ整備を大きく推進し、五輪橋は代々木競技場・選手村のある代々木エリアと国立陸上競技場・東京体育館のある明治公園エリアを結ぶ道路の整備に伴いJR線を跨ぐ神宮橋の南側に架けられました。橋の欄干にはオリンピックを記念する競技のレリーフが施されています。



富ヶ谷一丁目付近に設置された
オリンピック歓迎塔
(渋谷区広報誌)

オリンピックの街・しぶや

1964年東京大会関連渋谷マップ

甲州街道マラソンコース (コースは『第十八回オリンピック競技大会 公式報告書』による)
マラソン競技は10月21日13時に国立霞ヶ丘競技場をスタートし、渋谷区内から甲州街道を西走し、調布の折返し点を目指しました。50キロ競歩も同様のコースで10月18日に行われました。



マラソン折返し点
記念碑 (調布市)

代々木選手村

オリンピック招致計画では埼玉県の朝霞に想定されていた選手村は、開催決定直後から渋谷区で誘致活動が始まり、代々木の地に落ち着きました。選手村の予定地には米軍の宿舎であったワシントンハイツが建てられましたが、当時はまだ返還されておらず、前年の12月に接收の解除を受けました。宿舎はほとんど在来のを修復して再利用し、9月15日に開村しました。1度に1,000人が食事できる食堂や銀行・郵便局・劇場・診療所なども設けられ、宿泊者は最も多いときで7,152人に達し、全期間の延べ収容人員は147,527人でした。大会後は都立代々木公園として整備され、園内には記念宿舎が残され、また陸上競技場(織田フィールド)脇には選手村記念碑が建てられています。



記念宿舎

③ 代々木選手村

選手村記念碑

五輪橋

選手村・代々木競技場がある代々木エリアとメインスタジアムのある明治公園エリアを結ぶ放射23号線が山手線を跨ぐ形で架けられました。橋の側壁面には競技にちなんだレリーフが施されています。



② 代々木競技場

国立代々木競技場

15,000人を収容する屋内競技場として、別館体育館とともに主設計を丹下健三が担当しました。柱が一本もない室内空間をワイヤーロープで支える吊屋根構造という斬新なこの建物は数々の栄誉を受け、東京大会のシンボルとして現在に至ります。当初は柔道会場としても想定されていましたが、水上競技会場として10月11日から競泳18種目や飛込みが行われ、別館体育館では10月11日からバスケットボールが開催されました。



NHK放送センター

東京オリンピックの放送センターとして旧ワシントンハイツ内に設けられ、後にNHKの本部施設として内幸町から全面的に移転してきました。



渋谷公会堂

この年渋谷区総合庁舎とともに新築された渋谷公会堂では重量挙げが行われ、10月12日にフェザー級の三宅義信選手が日本に大会最初の金メダルをもたらしました。2019年には渋谷区庁舎とともに建替えられ、往時の姿はとどめていません。



① 渋谷公会堂



新渋谷公会堂

聖火リレーコース

国内を4つのコースで東京に運ばれた聖火は、渋谷では10月8日に第2コースのうちの2.3kmが恵比寿・広尾方面を駆けぬけ、2区間に46人が参加しました。



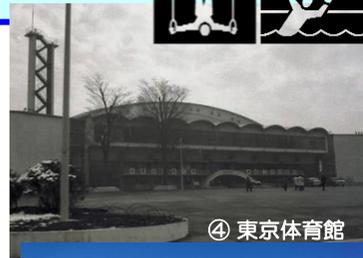
⑤ 聖火リレー

オリンピックを記念した
国旗掲揚塔 (代々木)
代々木1-32
代々木一丁目町会
昭和39年10月設置



東京体育館

東京体育館はメインスタジアムである国立霞ヶ丘競技場に向き合う形で1954年に完成しています。大会にあたって改修が加えられ10月18日からの体操競技の会場にあてられました。付属する屋内水泳場では11日から水球が行われました。1990年に横文彦の設計により現在の姿に全面改築されました。



④ 東京体育館

国立競技場 (新宿区)

オリンピックを記念した
国旗掲揚塔 (原宿)
神宮前3-33
原宿三丁目町会
昭和41年9月設置



岸記念体育会館

オリンピック開催を機に神田駿河台から移転新築され、大会組織委員会事務局が入りました。岸清一は日本体育協会の2代目会長で、最初の建物は岸の遺言寄付によるものでした。2020年の大会を前に神宮外苑へ再度移転しました。



地図の町界・町丁名は昭和38年当時 (小文字は現町丁名)

①~⑤は渋谷区広報撮影